

中学生当時のいじめ被害と高校入学後の学校適応の関連 —高校入学後の将来展望の影響—

三島浩路(中部大学)

キーワード: 将来展望, いじめ, 学校適応

問題と目的

本研究では, 中学生当時のいじめ被害が, 高校入学後の学校適応に関連する過程に着目し, 高校入学後の将来展望の影響について検討する。本研究では, 未来に向けた前向きで現実的な考え方や自己イメージを「将来展望」と定義する。

三島(2019)は, 高校生の将来展望を測定する3因子構造の尺度を開発し, 高校生の将来展望を構成する「向社会的努力志向」因子と「肯定的・積極的将来像」因子が, 中学生当時のいじめ被害の影響を受ける可能性があることを示唆する結果を得た。また, 三島(2018)は, 高校生の対人関係や学習に関連した学校適応に, 高校生の将来展望が関連することを示唆する結果も得た。こうしたことから, 中学生当時のいじめ被害が, 高校入学後の学校適応に負の影響を直接及ぼす過程だけでなく, いじめ被害が, 高校生の将来展望に負の影響を与え, 将来展望の悪化が学校適応を低下させるという二つの過程が想定できる。そこで, こうした過程をモデル化(Figure1)し, 高校入学直前と高校入学後の6月・11月の合計3回実施した調査結果をもとにしてモデルの検証を行う。

方 法

調査時期 2018年3月にA県立B・C高等学校でそれぞれ行われた入学説明会の折, 保護者に対して調査の趣旨を説明し, 入学前生徒用調査紙・回収用封筒を保護者経由で生徒に配布した。回答した質問紙は添付した封筒に厳封して4月の入学式の日に高校教師に提出した。同年6月に将来展望, 同年11月に学習・対人適応に関する質問紙調査をショートホームルームの時間を利用して実施した。入学前後の調査に関しては, 管理職を含めた高校職員と内容を検討し, 高校側の同意の下で実施した。なお, 本調査に関しては, 中部大学倫理審査委員会の承認を得た(承認番号: 290093)。

分析対象 B高校(男子150人・女子130人)280人, C高校(男子130人・女子151人)281人, 合計561人を対象に調査を実施し, すべての調査に回答した504人(男子242人・女子262人)のデータを分析に用いた。

調査内容

入学前調査 中学生当時のいじめ被害について, 「中学生のころ, クラスのみんなからいじめられたように感じた」「中学生のころ, 仲間はずれにさ

れたと感じた」「中学生のころ, 親しい仲間からいじめられたように感じた」の3項目に5件法で回答する形式。

将来展望 15項目に5件法で回答する形式の高校生用将来展望尺度(3因子)を使用した。この尺度を利用した調査を6月に実施した。

学習・対人適応 学習面・友人関係をはじめとした対人関係に関する適応状況を把握するための調査項目を, 高校生活適応感尺度(浅川・森井・古川・上地, 2002)を参考にして作成した。学習適応(4項目)・対人適応(4項目)の8項目に5件法で回答する形式の調査を11月に実施した。

結果と考察

いじめ被害に関する3項目の平均値($r > .44$)を「いじめ被害」指標とし, Figure1のモデルによる共分散構造分析を行った結果, データへの適合度は許容できるものであった($GFI=.94$, $AGFI=.92$, $CFI=.93$, $RMSEA=.049$)。

「いじめ被害」指標から学習適応へのパス係数は有意なものではなかったことから, いじめ被害が直接, 学習適応に影響するのではなく, いじめ被害が, 向社会的努力志向を低下させたり, 肯定的・積極的将来像をもちにくくさせたりすることにより, 学習適応が阻害される可能性があることが示唆された。対人適応に関しては, いじめ被害が直接影響を与えるだけでなく, いじめ被害により向社会的努力志向が低下することによる影響もあることが示唆された。

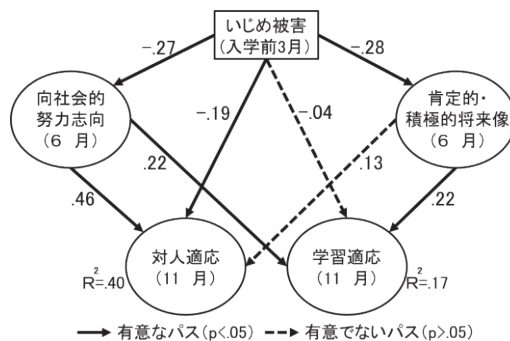


Figure1 中学生当時のいじめ被害と将来展望・学校適応の関連

付 記

本研究は, 日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C)課題番号 17K04379)によるものである。